



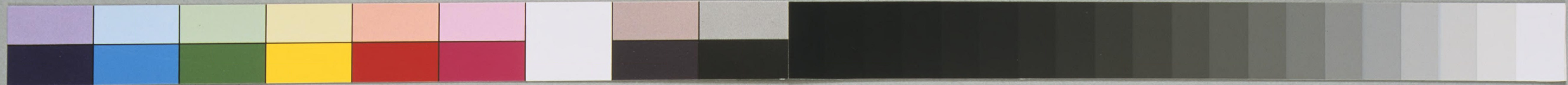
観世流謡曲 元和卯月本

62-001

62 養老

国立国会図書館





凡も静よあらしの聲の（下）あり
 りぬ板屋のこきり（下）松（下）は（下）略
 天竺（下）は（下）也（下）板（下）も（下）この
 國本軍の郡（下）よ（下）あ（下）ま（下）なる泉（下）そ
 くの（下）を（下）奏（下）め（下）す（下）泉（下）さ（下）る（下）ま（下）い
 くの宣方ふまると（下）今（下）濃（下）州（下）本
 軍の郡（下）と（下）泉（下）と（下）高（下）



民も豊りよそし 雪子も道有
開乃戸の秋津鳴ねやあはらるる
いふれらるしよををみ 見の中
道程もく浪老りたまよまよ
まわく 年を經しこのお山の
松蔭よ枝葉を氷のどとちり
かほいあれたる老りはくはく
かほいあれたる老りはくはく

女子心ゆ 故人眠をやらめ
夢ハ六十年の花よる包心ハ茅店の
月子霜守りハ板橋乃霧子漂
白頭乃雪ハつもれとも老をや
あふ離れのよや心を清きらん
奥山ハ深谷のきりりたり
あふれをくはとも絶し

長生の家より
門とあるあるよ是も年ふる山
まろしりふ代のだりを松の
岩弁の水ハ薬よそ考との入
ころころ行きあふも
る小是成考人よ專めくまよの
こる事よそころ行よそ

作らばとゆ及たる親子の者
らそんそしう親子の者よそへ
是ハ帝よそらる執使よそ有よそ
の親やま井遠よそある親は
君のよそものを賤きよそして今
りよそりる親らよそ社親子の民
よそへ叔も此本單の初よそ



あはれ家の子とて養ふはよしの業

かして美しとて富るゝまはせし

執使を下らるゝ世はまじく根老と名

付らぬと謂ふまじく一箇

はかばかしく是は子作の此射の子よとて

物たるは子よりちりちりちりちり

育たぬ母とて母とて母とて母とて

此水を行とて流るゝのちの壽帯

あはれ心も涼しくわもたむ

あはれ他家の薬のあもかくわ

思ひまじくもて家路に返さむ

父母はまじくもてあはれ

あはれ心も涼しくわもたむ

あはれ心も涼しくわもたむ



寝覚もらひらひのりてふらふらと
まゝあり宛もも老を糧の故に
糧老の配といふなり
有るや梅し今も薬の水汁だ
はらうちもそもたれお在りある
やまも 三十四 老花入此剛埃のま
いふらう若同ふらひるあのかん

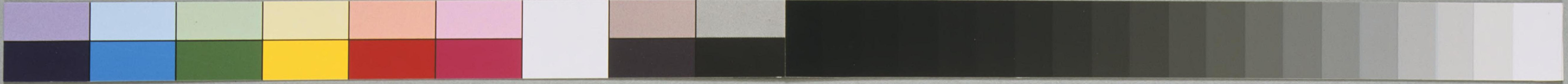
楓も是かともさうらうさういふ
まゝまゝの井り 三十一 庭のま
らも石のまほとぬるまのま
ふ代もあらうたり 三十一 のま
はらひある薬のま 三十一 妙は老
やあなり 三十一 老はるは老
まゝ感りのまは薬とあり

つらさにも流す命も書きたるは
あはれなるもあはれなるや
すめらむは代りて流るまの我ら
まはる書よまはるは
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる

あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる
あはれなるもあはれなるのまはる

かきみくわとからぬん其の舞の
萩花ハ林葉の秋と似るや晋の
古賢り聖人劉伯倫の歌ひは此
るよおきりぐもくめみ薬を
きんり鳥よりきん曲ふは信ふ
あつと石よりりてをうくも
年よえらりておよそめい

上は義
月をほめや引て月をへ
山路の奥のありては竹ま
やあり 上は 彭祖の菊の水
たる露の粒は仙薬を受し
七百歳をすも薬の水とす
物を 地 定薬と菊の水は粒の
露のま 上は 一歳をすもあり



他 瓦 だの草本まで
 花 咲
 ありともりり 具 打
 唯 是 雨 露 乃 び 又 是 也
 け ぞ け 乃 文 母 たる 由 づ け 菊 毛
 下 あり け 水 あり あり あり
 下 袖 して 結 あり 影 あり あり 山
 下 の 井 対 あり 薬 と思 あり あり あり

水 あり 水 と あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり

翁 あり あり あり あり あり あり あり
 だ あり あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり あり

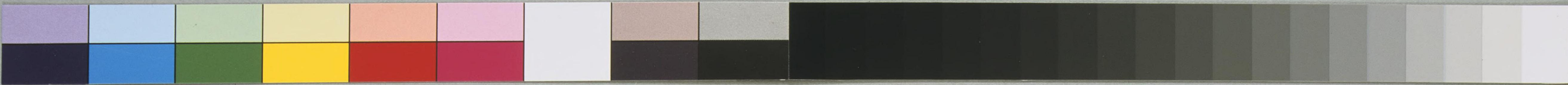


かつたまは流るる響きもよほしきと
 音響よし花よりぬきしよゆめと
 見えすく 百種や治まる代
 のあらひそくはのちあまきつや
 五百のりせや十日のあめり下り
 日のまはり曇るはあつた玉の
 泉にもも画し蕙有るの

やあ ^{上地} 是れも響くはら流るる
 画とあつた代なるなる
 此山は山志きり宮古 ^地 又と楊柳 ^地
 観音さまの障子 ^地 ねとひ ^地
 唯しあはれ隔る ^地 氣まな度 ^地
 の方便名聲 ^地 扇のあ ^地 わが ^地
 水音よと ^地 柏子を橋へ ^地

右百番之申者系亦直
傳石岡が左妻の音平句付
依波板起程の今清書
加奥あり早

元和六年 観世左近大夫
卯月日 菅原五



観世流謡曲 元和卯月本

62-013

62 養老

国立国会図書館

